

2024 年度

ケヤキッズ保育園の自己評価

【自己評価結果の公開について】

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。

この事を踏まえ、ケヤキッズ保育園ではこれに基づき検討し、保育の質の向上を図る為、保育所及び保育士の自己評価を実施しました。今後はこの結果を踏まえ、次年度の保育計画・保育内容等の改善に活かし、改善していく事で、保育園の専門性・組織力を高め、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより良く深まるよう努めて参ります。

1、保育目標

年齢	3 歳児	4 歳児	5 歳児
ねらい	集団生活の中で子ども同士で行動を観察し模倣することの喜びを味わうことで社会性の発達が身に付き、豊かな人間関係を築く	認め合い、励まし合うなど子ども同士で関係を広げ、相手の立場を気遣う感受性を持つ事で情緒が豊かになり集団で行動することを喜び楽しむ	自主性、仲間意識、課題意識が育ち、自覚と自信をもって、社会生活に必要な基本的な能力を身に付け、集団生活を楽しむ

2、1 年間の取り組み状況

<こどもが育っていく環境構成>

月に一度、理事長・統括園長・園長・主任・各クラスリーダー・ベビールーム園長・スマイルルーム園長・評議員の野村義先生・聖徳大学の吉田先生の 11 名で、こどもの育っていく環境や保育士の悩み事について話し合い（育ちあいアカナコカーナ）を行った。

保育士が悩みを素直に発言できたことで、野村先生・吉田先生からたくさんの励ましとアドバイスをいただくことができ、保育士の自己肯定感・質の向上につながった。その中で現在も、異年齢・インクルーシブな保育の実践と振り返りを繰り返し、よりよい環境を再考し続けている。

<廃材遊び>

自由に制作活動することができるよう、こどもが取りやすい位置に廃材を設置する等、置き方を工夫した。また、こどものイメージを大切に、肯定的な声かけをすることで活動意欲を高めていった。

<Family Concert>

こどもたちに音や表現を楽しんでもらうため、こどもたち・兄弟・保護者に協力を仰ぎ、松戸市民劇場で開催した。内容は、トランペットの演奏やヴァイオリン・ピアノやダンス、保育士たちの劇を楽しんでいただいた。保護者からのアンケートでは、嬉しいお言葉をたくさんいただき、保育士の自信に繋がった。

<ケヤキッズファーム>

畑にサツマイモ、プランターには、こどもたちが希望したトマト・きゅうり・なすを植え成長を見守った。こどもたちは、成長過程に興味を持ち、水やりをしながら大きくなっている様子を楽しんでいた。大きくなった夏野菜は都度収穫し、サツマイモは姉妹園のベビールーム・スマイルルームのこどもたちも来園し、ケヤキッズのこどもたちと一緒に収穫を楽しんだ。

<散策>

桜や、枝豆の成長を見に散歩に出た。すれ違う方々や農家の方々と挨拶を交わす等、地触れ合いを行った。

<食育>

毎月、栄養士が保育室で行うことで、こどもたちの興味関心が高まった。

<保健計画>

毎月、保護者には園だよりで伝え、こどもたちには、保育中に手を洗おうね・鼻水を拭こうね等、保育士が丁寧に関わることで、こども自身が気付き進んでできるよう努めた。

<アカナコカーナ>

保護者の方の話に耳を傾け傾聴することで、信頼関係を深めていった。また、園での様子を細かく伝えることで安心につなげることができた。

<避難訓練>

有事の際、慌てることなく冷静に行動できるよう、訓練予定を伝えないシークレット訓練を実践した。保育士の不安や分からない事が表に出たことで園の課題が明確になった。

<医療的ケア児>

看護師を配置し受け入れ態勢を整えるとともに、環境を整備し見学対応を積極的に行った。保護者の方が、お子さんが生活する様子をイメージできるよう丁寧に説明を行ったことで、2025年の受け入れが決まった。そのため、園児のケア内容について知識を深めた。

<松戸市公立保育所と合同で保育研究>

計画時に予定をしていたが、担当者の変更により合同での保育研究を行う事はなかった。

<地域の保育園と交流>

近隣の保育園の避難訓練見学や、日ごろの悩み等を話す時間をいただいた。他園の避難訓練は参考になり、活かせる内容を取り入れた。

<自己評価>

年2回、自己評価を行うことで自身の課題に気付くことができた。実践と振り返りを繰り返しスキルアップに繋げていった。

<普通救命講習>

理事長・統括園長が応急手当普及員として職員全員に普通救命講習を実施し、松戸消防局より「救急救命技能優良事業所」としての認定を受けた。

3 1年を振り返って

今年度は、こどもが育っていく環境構成に重点を置き、何度も話し合いを重ねてきました。保育士の悩みを解決しながら少しずつ前に進み、ケヤキッズ保育園が考える保育の姿を模索し続けてきました。なにより、こどもたち一人ひとりを大切にしたい保育の実践を積み重ね、こどもたちの笑顔を守り続けてきました。保育士の個性も大切にしながら、職員一丸となってとよりよい保育の確立に尽力することができました。引き続き、皆様から信頼され安心できる園運営に取り組んで参ります。